

ゆ  
き  
が  
た  
り





ゆきがたり  
—雪語り—

その時僕らは、夢から覚めた——。

# 前書っぽい物。

初めまして、そしてこんにちは。  
北里マコトです。  
今回もご多分に漏れず、  
予告した君望本ではなく水月本となりました。  
しかも最初は雪さん Only だったはずなのに、  
気がついてみれば何故か他のキャラもわらわらと…。  
本編のマンガでは雪さんしか出てきていないのですが、  
イラストや4コマで他のキャラも出てきています。  
だって雪さんばっかだとネタに困ってしまって… (汗

今回のマンガはちょっと尻切れ状態です…。  
本当なら最後まで載せる予定だったのですが、  
時間の都合上、どうしても載せる事が出来ませんでした。  
だから消化不良な面が目立ってしまいますが、  
その分そこに至るまでは出来るだけしっかり描いたつもりです。  
いつもよりもHシーンも長いし (だらだらしてるだけという噂もある)、  
どうしても描きたかったお〇らしとかも願ひかなったりだし…。

本編についてはマンガの最後に補足というか、  
フリートークというか、そんな形でまとめてみました。  
そちらの方を見ていただけると助かります。

4コマは「みずかべ」ネタということで…。  
透矢ってば、どんどん変態になっていきますね。

イラストの方は、書下ろしと再録という形になっています。  
再録の方は、  
北里的に思い出深いイラストを3点載せてみました。  
どこかで見たことあるなあ、という絵もあるかもしれませんが、  
そこはどうかお見逃しください… (汗

それではまた後ほどお会いしましょう。

願わくば、読んでくれた方が楽しんでいただけますように…。

2003. 4. 20 自宅にて。





駄目ですよ、  
透矢さん——  
まだお掃除が……

ん……

はあ



それにこんな  
場所なんて……

ちゅ……

ふあ……  
駄目ですってばあ……

# ゆきがたり

—雪語り—

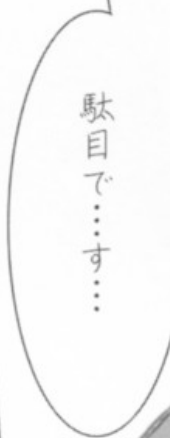
その時僕らは、夢から覚めた——。



あっ——！







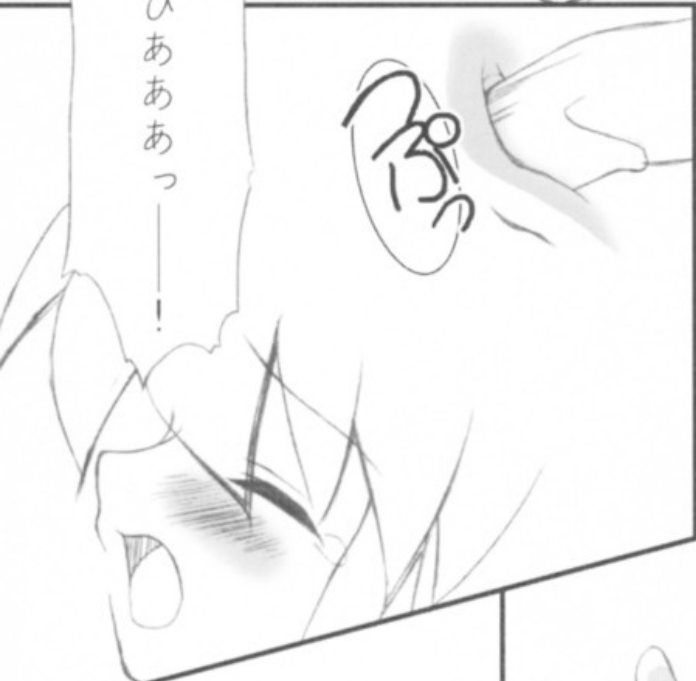


んふ…



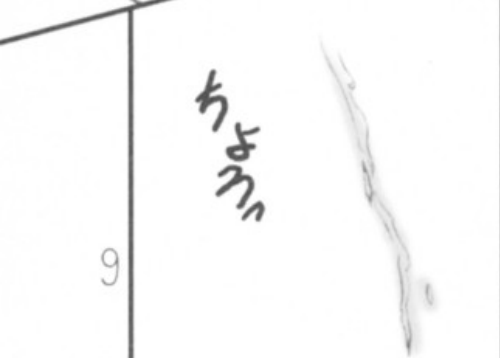
あつ、  
そ、そこは駄目で

んふ…



ひあああつ——！！

んふ  
んふ



わんわん



そ、  
そんなところ

汚い…です…から

ほ、本当に  
駄目…です…





はあ

んうーっ!

しよわわわ

ふい

ふい

っくー



はあ

と、  
とまら...ない...  
です...う



はあ

い、  
嫌あああ...

ちよろ

ちよろ

はあ

んあ...

ちよろ



はあ

はあ

あつ、  
そん…なにひあいちや  
らめです…

はあ

ん…



はあ

はあ

と、  
透矢さああん……っ



んくう…

はあ

きゆううっ…



はあ

はっ

ああああ...っ



千口千口

や、優しく...



むじゅん

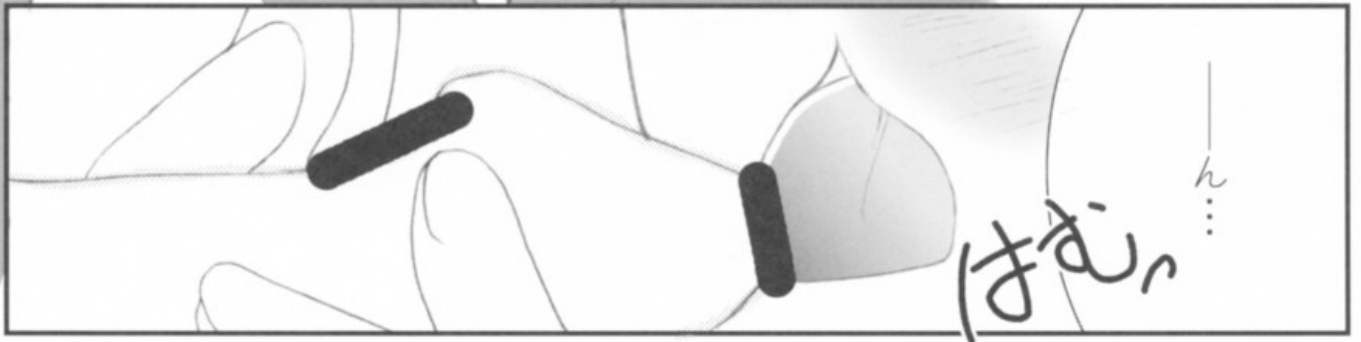
して くらふあいいい...



くうう...ん

はふっ

んっ...





と、  
透矢さんっ…の、  
…おち…んが…

んっ  
んっ

んっ

んううううううっ!

ストン  
ストン  
ストン

雪の胎で…  
すご…い…

ふああ

熱…いい

んっ

んーッ

んあっ!

はうう

んーッ

しゅん

しゅん

ーひあっ

はあっ

おねがい…しますう…  
雪の…ッ胎なかに—

透矢さんの…ものを—  
いっぱい…くだ…さい!

—雪に…  
っくださいっ—

しゅん



雪の胎に…  
いっぱい透矢さんが…!!

あんツ…!!

ビュッ

ゴッポッ


ゴッポッ

ピッ

ピッ

うる

ん…ふあ



あああ…  
いやあああ——

透矢さん…

また、  
一杯愛してくださいね……

ここならいつでも  
会えますから——

だから、  
今はゆっくり  
休んでください——





ずっとずっと、  
愛してます、  
透矢さん——

おやすみなさい——



その時侯らは、夢から覚めた——。

## 今回の不明瞭かつ未消化な物語について

■前書にも書いたとおり、かなり舌っ足らずな物語になってしまいました。  
本当は17P目の後に2ページほどの雪と透矢のやり取りがあったはずでした。  
しかし今回はその部分を大幅にカットして時間短縮してしまったため、本当に只のエロマンガになってしまっています。  
しかも背景として何故かトイレの画像があったのも意味不明ですね。  
これは透矢の夢の中なので、雪さんの掃除風景が強烈なイメージとして残っていたためと思われます。  
まあ、お漏らしはトイレでさせるのが一番楽でしょう(笑)

■この話は最後のオチでも花梨が出てくるように、花梨 EDとしてのその後の話になっています。  
何故か花梨 EDとアリス・マリア EDでは、透矢の家の中に雪さんの姿はありません。  
そして透矢もそのことに対して疑問もなく、そこは新しいパートナーと一緒に生活する場所になっています。  
当然の様にパートナー達も雪さんの存在はなかったの如く行動しています。  
では雪さんはどこに消えたのか。

■ここでまず浮かぶのが、マヨイガの存在です。  
雪さんの EDは、彼女は洞窟の奥底のマヨイガで透矢を待っており、  
そして迎えに来た透矢と、誰の干渉もないその新しい世界で暮らすという(そこまでは描写されてませんが)物でした。  
今も新しい住処「マヨイガ=迷の家」で何も不安のない生活をしているでしょう。  
やがて透矢の記憶も、他の人たちから消えていく運命にあるんでしょうね。  
でも北里は、花梨たちの EDでは雪さんがマヨイガに行ったとは思ってません。

■作品中に「ピーターパン」の話がありました。  
その中で雪さんが違った解釈をしていました。  
「ネバーランドもティンカーベルも、ピーターパンが作った幻」なのだと。  
それを見ることが出来る純粋な子供なら信じる事が出来るけど、  
大人になった人間達には、幻はもう見る事が出来ない。  
ここでさっきの話に戻ります。  
雪さんは一体どこへ消えたのか。そして何故透矢たちは彼女を忘れてしまっているのか。

■北里的解釈をさせてもらえば、雪さんを取り囲む環境や人々がネバーランド然りティンカーベルであって、  
雪さん自身がピーターパンであったと。  
そして雪さんへの愛を、違った方向に向けた子供——透矢がそれを見ることが出来なくなり、  
それに支えられてきた雪さん自体の存在も、虚空の物となってしまったのではないかと思っています。

■そして当夜の心の片隅に残された僅かな記憶が、  
ほんの少しだけ雪さんとの逢瀬を夢の中で叶ったといった感じですか。  
まあ、その逢瀬の場所がトイレというのもなんですが(汗)

■でも、雪さんにとってはその夢の世界こそ現実であって未来であって過去でもあるんですよね。  
だから最後に雪さんが言った「おやすみなさい」という言葉が出てくるわけです。  
裏の裏は表であり、夢の夢は現実である。  
もちろん人間は夢の記憶を持ったまま現実を生きることはまず不可能です。  
覚えていても断片的でしかありません。  
でも、心の中では覚えているんですよ。だから人間は同じ夢を見てしまうのです。  
それはナナミ様の夢でもあり、愛しいママの夢でもある——。  
きっと今夜も透矢は雪さんの夢を見るでしょう。  
傍らで花梨が寝息を立てていたとしてもです。

■花梨と情事を重ねる現実と、雪さんと禁断の恋を紡ぐ夢。  
そんな透矢の生活を描いたのが今回の話だったりするわけでした。  
いつ、どちらの透矢が破綻するか。  
それは二人への愛の強さが物語ることでしょう。

■つかこうやって補足しないと、  
何がなんだか分からない話っていうのは駄目ですね、反省…。

■以上、不明瞭すぎて北里もよく分からない今回の話でした。  
お粗末。



お漏らしを我慢する雪さんの顔に萌え～(\*´Д`\*) おしっこ

すくみずう。



■北里はスク水を描くのが初めてです。  
なので、  
参考文献はあかざわ RED 氏の「スク水のほん」です。  
わはー。

■なんとなく描き上げたのは  
いいけれど、  
飾り付けてる時間が…(汗)

ぽりぽり  
ぽりぽり  
ぽりぽり  
ぽりぽり  
ぽりぽり  
ぽりぽり  
ぽりぽり

鈴蘭  
まうんと  
ばんち!



子供は無邪気。













## 再録のイラストの 解説っぽい一言メモ。

### 25P 「雪をどうぞ」

2003.1月頃のイラスト。

雪さんを描き始めて間もない頃一枚。

丁度色の塗り方を勉強してた頃で、

減茶苦茶な色の付け方してました。

今も大して変わりませんが(汗

### 24P 「春だから、無意味にパンチラ」

2003年4月頃のイラスト。

この原稿に取り掛かる直前のカラーイラストです。

気がついたらこんなポーズでパンチラ状態でした。

何も考えずに描いてた結果ですね(汗

っうか無理矢理すぎだ、これは…。

### 26P 「わはー」

2003年3月頃のイラスト。

徹夜カラオケの中、こっそりと描いていたイラストです。

これはもう何もいうこともありません。

まあ、色々とありましたね、あはははは…。

本当はスパッツをちゃんと履いてました。

気がついたらずり下げられてました(苦笑  
でも、個人的に気に入ってるイラストの一枚です。



## あとがきっぽい物。

というわけで、あっという間にあとがきです。  
楽しんでいただけましたでしょうか？  
相変わらず雑な仕上になってしまいましたが、  
少しでも楽しんでいただけたら光栄です。

次回の予定としては、  
このマンガの続き（っぽい）花梨のマンガを考えています。  
というか、花梨が描きたくて描きたくてしようがありません。  
雪さんは今回一杯描けたので、  
しはらくは満足できそうですし（笑

さて、今回のスペシャルサンクスのコーナーです。  
大鳴ひなど女史。  
今回も表紙の彩色をメインに頑張ってくださいました。  
本当に助かります。  
次はちゃんと塗れる様に頑張ります（汗。

以上……。  
今回は頑張ったかも、自分…。

そして、  
これを読んでくれている皆さんに感謝です。

それでは次回、  
（当選していれば）夏コミでお会いいたしましょう。

2003. 4. 20 自宅の PC 前で必死で作業している北里マコトでした。



—  
で  
さ  
…

—  
ん  
！  
。



ねえ、透矢  
ホントに大丈夫？

むい



夢を——  
見たんだ

夢？

なんだか酷く  
優しくて——

とても  
悲しくて切ない——  
そんな夢だった

今日は朝から  
ずっと変だよ……？

でも、  
もう大丈夫

ん？

今は花梨が――

いてくれるからね

## おくづけ

ゆきがたり  
2003.4.29

発行 Blood-Elemental  
北里マコト

印刷 ねこのしっぽ様

<http://www26.cds.ne.jp/~angelip/>  
<mailto:angelip@cds.ne.jp>

ったく、  
キミってば……

ん……

あーっ、  
こらこら！  
これ以上は駄目！

この続きは  
家に帰ってからね？

# ゆきがたり

—雪語り—



Yuki-Gatari

# 水月

Yuki Kotonomiya  
Only(?) fan book.

■  
written by  
Makoto Kitasato  
in Circle "Blood-Elemental"  
2003.spring